

## 平成18年度 愛媛県公共事業再評価委員会 議事録〔要旨〕

### 1 開 会

### 2 開会挨拶

### 3 議 事

#### (1) 市町審議付託の適否

- ・市町から付託要請のあった漁港海岸保全施設整備事業1件(宇和島市)、公共下水道事業1件(上島町)、流域資源循環林整備事業1件(伊予市)の3件についても本委員会で審議する。(全員異議なし)

#### (2) 審議方法及び個別審議箇所の抽出

- ・今年度審議対象件数は11件であり、特に個別に審議が必要と思われる箇所を選定して審議し、残りは一括審議とする。(全員異議なし)
- ・個別審議箇所は、各委員の意見により決定した農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業(松山南部地区)、総合流域防災事業(増穂川)、道路改築事業(一般国道197号名坂道路)、港湾改修事業(伯方港)の4事業とする。(全員異議なし)

#### (3) 個別審議

##### ・農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業〔松山南部地区〕

##### 【農地整備課】

- ・事業内容、進捗状況及び今後の方針等を説明。

##### 【柏谷委員長】

- ・文化財発見効果とあるが、非常に貴重な財産になるものが出てきたのか。

##### 【農地整備課】

- ・路線を変更して、現場を保存するほどの貴重なものではなく、記録保存が適当であり、遺物は市教育委員会で保管するとともに冊子として記録を残している。

##### 【柏谷委員長】

- ・一般的に事業費に計上する埋蔵文化財発掘費用を便益にも計上しているが、特別な理由があるのか。全国的にこういうマニュアルになっているのか。

##### 【農地整備課】

- ・はい。

##### 【青野副委員長】

- ・埋蔵文化財調査にかかった費用が便益と費用の両方に計上されているのは非常におかしい。
- ・事業期間を3年間延長したことにより、便益の発現が遅れ、現在価値化すると便益が小さくなるが、元々の費用便益はどの程度だったのか。

**【農地整備課】**

- ・ 現在提示している数値は3年延長も含め新たに求め直した数値であるが、以前の数値は資料を持ち合わせていない。

**【青野副委員長】**

- ・ 工期が遅れたらそれに伴って便益の発現が遅れるということをよく考慮していただきたい。

**【農地整備課】**

- ・ 意見を参考に、今後検討したい。

**【天野委員】**

- ・ 現地視察の際に、効果として、農作物等の輸送車両の大型化という説明があったが、周辺の状況を見たところ、車両の大型化は現実的でないと感じた。また、近隣の農業従事者から、道路状況によって、車両を選択しているわけでないとの話を聞いたが、輸送規模等をどう予測されたのか。

**【農地整備課】**

- ・ 土地改良区等を通じて、地元調査を行っており、地元の意向をある程度確認した上で予測している。

**【関委員】**

- ・ 費用対効果の数値があまりにも低い。埋蔵文化財や脆弱な地質について事前に予測でき、それを見込んだルートを選定もできたのではないか。
- ・ 費用をかけて実施する事業であるから、きちんと効果の出る事業であって欲しいと考えるがどうか。

**【農地整備課】**

- ・ 埋蔵文化財や農地の分布状況及び地元調整により計画を決定した。優良農地や埋蔵文化財が密に存在している箇所は避けた計画にしている。
- ・ 1期工区の反省を活かし、2期・3期工区については、工期が延伸することがないように努力したい。
- ・ 効果には、農業面だけの効果を上げており、社会的な面は反映させていないことを考慮していただきたい。

**【長井委員】**

- ・ 農道が将来全路線完成した場合、県道伊予川内線と農道に囲まれた地域の農家はどちらかの道路を利用するという形態に変わると思うが、農道に接続する道路が狭く利用しにくいいため、その整備に費用がかかると思うが、その費用は含まれているのか。

**【農地整備課】**

- ・ 含まれていない。

**【長井委員】**

- ・ 地域の方は使いやすい道路を利用すると思われ、農道に接続する道路がなければ全く利用されない。
- ・ 農道は南側が山であり、北側の農家の車両が利用するだけだと思うが、県道伊予川内線に比べるとあまり効果がないと思われ、このような道路を建設すること自体がおかしいのではないか。
- ・ 県道伊予川内線に接続し易いようにしたほうが費用もかからないのではないか。

## 【農地整備課】

- ・ 農作物を地区内の出荷場等へ出荷した後、市場等への輸送に農道を利用するというような二次的利用効果を考えている。
- ・ 伊予川内線近隣の住民の利用はあまり考えられないが、農道近辺の人は生活面でも利用することも含め、効果を算定している。

## ・ 総合流域防災事業 [ (二) 増穂川 ]

### 【河川課】

- ・ 事業内容、進捗状況及び今後の方針等を説明。

### 【櫻井委員】

- ・ 各委員が個別審議の対象とする理由とした、進捗率が低い、工期が長い等について説明がなかったので、説明して欲しい。

### 【河川課】

- ・ 進捗率が低く、工期が長い理由としては、河川改修事業は下流から順次施工すること、厳しい財政状況の中で集中投資が困難であること、この箇所は、下流に養殖産業があるため冬期に事業着手が困難であることなどがある。
- ・ この事業は河川の横断工作物が多いことから、その施工にあたっては集中投資を図りたい。また、今後完了工区が出てくるので、予算の重点化により出来る限り早く事業を実施したい。

### 【天野委員】

- ・ 平成17年にも浸水被害が発生しているが、工期は平成33年まで予定されており、その間の未改修区間における浸水被害等への対応についてどう考えているか。

### 【河川課】

- ・ 早期に被害軽減を図る方法として暫定断面による改修方法があるが、当箇所は横断工作物が多く、暫定断面による改修方法が困難となっている。
- ・ 現在までの被害実績は農作物が多く、住家の浸水被害も発生しているが床下浸水のみであり、下流については浸水被害が大きく低減されており、順次浸水被害の解消を図りたい。

## ・ 道路改築事業 [ (国) 197号名坂道路 ]

### 【道路建設課】

- ・ 事業内容、進捗状況及び今後の方針等を説明。

### 【柏谷委員長】

- ・ 全体事業費260億円は、名坂道路2車線開通に関する費用か。

### 【道路建設課】

- ・ 工事については2車線分であり、用地については4車線分の費用である。

### 【柏谷委員長】

- ・ 2車線供用の状況で便益を算出しているのか。

### 【道路建設課】

- ・ はい。

### 【柏谷委員長】

- ・ 残り2車線分の用地はどういう扱いになるのか。

**【道路建設課】**

- ・ 費用対便益の算定上は、事業費の中に用地費も含めて算定している。

**【柏谷委員長】**

- ・ 結果的に2車線分の用地は必要なかったということか。

**【道路建設課】**

- ・ 交通量が1.1万台程度になると予想しているが、今後の交通量の推移により、4車化が必要となるかどうか判断することとなり、現時点では言えない。

**【櫻井委員】**

- ・ 渋滞や不通になった場合の困難性等が住民にとって大きいと思われ、現地を見て、今回の工事はこれらの解消に有意義なものと感じたが、評価において、所要時間の短縮だけでなく、渋滞解消等を考慮していないのか。

**【道路建設課】**

- ・ 国土交通省の費用便益マニュアルにより、走行時間短縮便益、走行経費減少便益、交通事後減少便益だけを算出している。その中では、走行時間短縮便益が占める割合が一番大きい。

**【柏谷委員長】**

- ・ 櫻井委員の質問の意図は、渋滞時の便益と、一般走行時の便益は違うということか。

**【櫻井委員】**

- ・ 国は考慮していないかもしれないが、地方における短い区間の道路改修では、道路を改修することの価値等の評価を考慮してはどうか。

**【柏谷委員長】**

- ・ 櫻井委員の指摘は、日平均の所要時間で効果を算定しているが、ピーク時において渋滞解消の効果が発揮されるのだから、その時にどのくらいの効果があるのかを説明すべきということであるが、その点についてはどうか。

**【道路建設課】**

- ・ 整備効果としては説明できるが、便益として金銭化することはできない。

**【柏谷委員長】**

- ・ 検討していただきたい。

**・ 港湾改修事業 [ (地) 伯方港 ]**

**【港湾海岸課】**

- ・ 事業内容、進捗状況及び今後の方針等を説明。

**【関委員】**

- ・ 貨物船、タンカーの需要の見通しはどうか。

**【港湾海岸課】**

- ・ 平成6年の伯方港の入港船舶数は19,267隻であるが、その後、しまなみ海道が開通し、減少したものの、その後は横這いもしくはやや減となっている。今後の入港数も横這いの状況であると考える。

**【柏谷委員長】**

- ・ 入港船舶数の中に漁船も含まれるのか。

**【港湾海岸課】**

- ・ 小型船は除いている。タンカー、貨物船等である。

**【関委員】**

- ・ 将来の物流を考える時に、貨物船はコスト的に有利と思うが、入港する貨物船はどちらの地域からが多いのか。

**【港湾海岸課】**

- ・ 特定の地域からではなく、全国からであると思っている。

**【長井委員】**

- ・ 小型船だまりが完成後、現在の小型船だまりはどのように利用されるのか。

**【港湾海岸課】**

- ・ 利用形態については、今後、今治市と協議しながら検討することとしている。

**【長井委員】**

- ・ フェリーの発着箇所も移動するのか。移動しないのであれば、今までどおり大型船との輻輳が生じるのか。

**【港湾海岸課】**

- ・ フェリーの発着箇所は現在の内港のままであり、輻輳は生じる。
- ・ ただし、今回の事業の目的は小型船だまりを港の一番外側に出すことにより、小型船と大型船の輻輳の解消を図るものである。

**【長井委員】**

- ・ 小型船だまりが出来たら、小型船は強制的に新しい場所へ移動するのか。

**【港湾海岸課】**

- ・ 強制的ではないが、地元要望により建設しているので、完成すれば、新しい小型船だまりに移動してもらえると考えている。

**【長井委員】**

- ・ 現在の小型船だまりを引き続き使うのは自由ということか。

**【港湾海岸課】**

- ・ そうであるが、今治市と今後の利用形態については検討する中で展開が変わってくると思う。

**(4) 一括審議**

**河川事業（全般）**

**【天野委員】**

- ・ 先ほど、今後まだ工事期間が長い河川における災害への対応をお聞きしたところ、やむを得ない状況だというような説明だったが、一定溢れることを想定し、その際の被害を出来るだけ少なくするような国の河川管理の考え方の紹介が新聞であったが、県の河川改修での対応はどうか。

**【河川課】**

- ・ 光満川については、極力早く、少しでも現状改善が出来るよう、暫定断面での改修を採用している。
- ・ また、今回の国の通知は、輪中堤や二線堤でとりあえず民家を守る方針と理解しているが、県管理河川は、このような方法がとれる河川が少なく、今回の審議箇

所についてはさらに人家が点在しており、国と同様の対応は出来ないと考えている。

### **流域資源循環林整備事業 [ 大久保鳥越線 ]**

#### **【柏谷委員長】**

- ・ 10年経過して進捗率が62%であるが、現在の進捗状況で平成22年度に本当に完成するのか。
- ・ また、財政状況が非常に厳しい中で、今後の予算の見通しはどうか。

#### **【伊予市】**

- ・ 若干遅れてはいるが、予定に近い状況で進捗している。また、今後の予算についても事業計画どおり確保できると見込んでおり、平成22年に完了させる予定である。

### **事業全般**

#### **【柏谷委員長】**

- ・ 今、県の事業費は急激に落ち込み、補助事業であっても県の負担が出来ないという県も現れており、途中で予算が付かず、ストップする箇所が出るのが心配である。
- ・ そのような箇所が多数出てくれば非常に困るので、今後事業箇所を絞る必要もあると考えており、これを踏まえ、今後取り組んでもらいたい。

### **農林漁業用揮発油税財源身替農道整備事業 [ 松山南部地区 ]**

#### **【天野委員】**

- ・ 埋蔵文化財の発掘調査や脆弱な地質への対応が大変だったということだが、そのように困難な箇所の工事を今後進めていくことについて、見通し等が非常に心配であるという印象を持った。

#### **【農地整備課】**

- ・ 埋蔵文化財の調査による遅延は防げると考えている。
- ・ また、今回の反省を踏まえ、法面崩壊の可能性も頭に入れた上で、複数箇所を同時期に実施するなどの工期調整も行っていきたい。
- ・ 全線完成すれば、大きな効果が発現されると考えており、当面は1期事業の早期完成を図り、さらに、2期事業以降の実施に向け地元と一体になり努力していきたい。

### **流域資源循環林整備事業 [ 大久保鳥越線 ]**

#### **【長井委員】**

- ・ 林業は高齢者がやっている現状で、後継者も少なく、今後林業に従事される方がいなくなっても、完成まで事業を続けるのか。

#### **【伊予市】**

- ・ 現在のところ、林道近隣の森林施業は行われている。
- ・ 後継者不足や高齢化等進んでいるが、林道を整備し、森林整備の助成事業を行うことにより、後継者離れの縮減を図っている。

## 事業全般

### 【関委員】

- ・ 事業を計画した当時と、価値観も変わってきている。
- ・ 説明においては、林道事業における迂回路としての価値等、本当に価値のあることをもっと強調しても良いと思う。
- ・ 予算逼迫する中、防災や生活改善を優先してやるということが基本的な部分にあって然るべきで、今後の事業についても、県民の防災・生活改善について取り組んで欲しい。

## 事業全般

### 【青野副委員長】

- ・ 事業に着手した時点と、再評価・再々評価時点の費用・便益・工期等の違いについて、理由も含め分かるような説明をお願いしたい。
- ・ 便益が非常に偏っている場合は、何らかの形で受益者が負担するようなことも考える必要があるのではないか。

## 事業全般

### 【柏谷委員長】

- ・ 公共事業再評価等の制度が発足した平成10年度以降は、きちんとした事業評価の手続きを踏んで事業採択となっていると理解してよいか。

### 【事務局】

- ・ 事業採択時の評価は、各事業によって評価項目の違いはあるが、国の制定した評価項目に基づいて評価を行い、事業採択を決めている。

### 【柏谷委員長】

- ・ 青野副委員長は、事業採択時の評価と現時点の評価がどう変わったか説明して欲しいということであるが、事業採択が古い事業だと評価の方法が定められていなかった可能性があると思うがどうか。

### 【事務局】

- ・ 事業採択が古い事業は、評価がなされていないものもあり、当初のものを知るためには類推するしかない。

### 【柏谷委員長】

- ・ 国及び県等の評価に携わっていると、採択時にどのように評価されたのか疑問に思う事業もある。
- ・ 多くの場合、採択時には評価制度がなくデータが残っていないということになるが、今後、新規採択時に評価を受けた事業が再評価の対象となってくると思うが、事務局の考えはどうか。

### 【事務局】

- ・ 今後、採択時と再評価時の比較は出来ると考えており、いつからということも調べてご説明したい。

### 【青野副委員長】

- ・ 再評価、再々評価という以上は、以前評価した内容との比較を可能な限りして欲

しい。

## **事業全般**

### **【櫻井委員】**

- ・ 再評価であり、事業の重要性が、どのように変化したか説明して欲しい。
- ・ 各委員が個別審議箇所として選定した理由（不明点、疑問点）に対しては必ず説明して欲しい。
- ・ 国交省や、農水省の判断基準のものだけでなく、ここ独自で良いから、各委員が評価するときに評価しやすいようなデータを提示して欲しい。
- ・ 工期の短縮、コスト縮減、耐久性の向上等につながる新工法が次々に出ており、この導入にも努めて欲しい。

## **（５）審議結果とりまとめ**

### **【柏谷委員長】**

- ・ これら 11 件の事業について事業継続として良いか。（全員異議なし）
- ・ 異議がないようなので、本日審議した 11 件の事業全てを委員会の意見として事業継続とする。

## **3 閉会の挨拶**

## **4 閉 会**